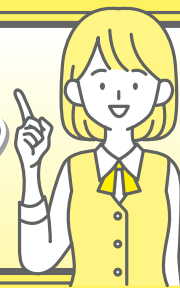


令和
7年度

各委員会の 年間調査テーマ

4つの委員会では、以下のテーマについて、1年間、調査・研究を行い、その成果を活かした提言を市に行っていきます。



議会運営委員会（8人）

「決算審査と事業評価の在り方について」



議会運営委員長

半田市が行う様々な事業や施策は、市民の皆さまの貴重な税金で成り立っており、市議会はその成果や費用対効果を見極めることが重要です。決算審査と事業評価は、半田市の取組みが実際に目的を達成しているか、市民の暮らしにどう役立っているかを検証する大切な機会です。

当委員会では、「決算審査と事業評価の在り方について」を主な調査テーマとして取上げ、事業の継続・改善・廃止といった視点も含め、より実効性のある評価の方法や審査の仕組みについて、他の市議会の取組みなどを調査検討し、今後の予算や行政運営の改善にどのように役立てていくか考えていきます。

文教厚生委員会（7人）

「読み書きの困難を抱える子どもたちへの支援について」



文教厚生委員長

近年、学習に困難を抱える子どもたちへの支援が全国的に注目されています。中でも知的発達には問題がないのに文章の読み書きに著しい困難がある「ディスレクシア（読み書き障害）」は、本人や周囲が気づかず学習の遅れや自信の喪失につながるケースもあります。

調査では通常学級に通う児童生徒の約8%が何らかの学習障害を抱えている可能性があるとされており、その中には支援につながっていない子どもたちも少なくありません。

当委員会では、主な調査テーマとして、「読み書きの困難に対する支援体制のあり方」を取上げ、教育や医療、ICTの連携によって、子ども一人ひとりが安心して学べる環境づくりについて、他の自治体や医療機関、民間団体などへの調査を行っています。

全ての子どもたちにとって「学びやすい」学校とは何かを考えていきます。

総務委員会（8人）

「選ばれるまちについて～自治体におけるマーケティング戦略～」



総務委員長

半田市がこれからも「住む人」「働く人」「訪れる人」など、すべての人から選ばれるまちであり続けるには、民間企業と同様に「マーケティング」の視点を自治体経営に取り入れる必要があります。

そこで当委員会では、「自治体におけるマーケティング戦略」を主なテーマに掲げ、調査研究することにより、半田市がすべての人から選ばれるまちであるには、どのようにしたらよいか考えていきます。

建設産業委員会（7人）

「公共交通の利便性のさらなる向上について」



建設産業委員長

これまで半田市は地域の公共交通を確保するため、地区バス会の皆様と議論を重ね、現在のバスを中心とした公共交通網を作り上げてきました。一方で公共交通の空白地域の存在や部路線における利用者数の伸び悩みなど課題も山積しています。

当委員会では半田市の公共交通の現状を認識し、課題解決に向けた調査研究を行うことで公共交通の利便性が更に向上するにはどのようにしたらよいか考えていきます。

半田市では平成30年10月から公共交通であるバスの路線が大きく生まれ変わりました。知多乗合株式会社が行っている路線は6から2路線に統合され、新たに半田市が運行委託する地区路線Aが誕生し、令和2年10月から地区路線Bが運行を始めました。また、令和4年7月からは地区路線Aの小学生運賃が無料となりました。

各委員会が取り組む調査テーマ